

## 質問回答

バングラデシュ国チッタゴンーコックスバザール道路整備事業準備調査

(公示日:2019年5月8日/公示番号:190108)について、質問の回答は以下のとおりです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	4頁 7. プロポーザル等の提出 (6) 見積書	見積書作成に参照する資料として「コンサルタント等契約における経理処理ガイドライン」が挙げられているが、本件はQCBS方式を採用しているため、参照するガイドラインはQCBS対応版の経理処理ガイドラインではないか。	ご指摘のとおりです。「コンサルタント等契約における経理処理ガイドライン(QCBS方式対応版)」をご参照下さい。
2	4頁, 7. プロポーザル等の提出 (6) 見積書 3) b) 現地再委託費 29頁, (3) 現地再委託①～④	4頁では、定額で見積もる現地再委託費の内訳として、3項目(交通量調査・自然条件調査・環境社会配慮関係業務)が挙げられている。一方で、29頁における現地再委託の想定項目では、上記の3項目に加えて②ベースライン調査が含まれている。 ベースライン調査にかかる費用は、現地再委託費の環境社会配慮関係業務の定額分2500万円に含まれるものと考えてよいか。	ご理解のとおりです。ベースライン調査に係る費用は、ベースライン調査を現地再委託する場合及び現地再委託しない場合ともに環境社会配慮関係業務の定額2500万円に含みます。
3	12頁 6. 調査の範囲	「当機構がバングラデシュ側とで合意する協議議事録に基づいて実施する」とあるが、この協議議事録は契約締結後に提供されると考えてよいか。	本調査実施にあたり必要となる箇所につきましては、契約締結後に共有させていただく予定です。

4	14 頁 7. (5) 環境社会配慮	本事業の環境カテゴリは「B」が想定されているが、調査の結果、環境カテゴリ「A」となった場合は変更契約（MM 変更・契約期間の延長など）を想定してよいか。	調査の結果環境カテゴリが「A」となり、対応業務が増加する場合には、契約変更を検討する可能性がございます。
5	15 頁 7. (10) 広報・メディア対応補助	想定される広報媒体はパワーポイントの作成程度で、広報ビデオの作成は含まれないと考えてよいか。	広報映像の作成も想定しております。映像製作費は国内再委託費として1,000千円(消費税抜き)を定額で見積りに含めてください。
6	17 頁 8. (4) 交通量調査及び将来交通量の予測 18 頁 8. (9) 概略設計、等	交通調査に「オ）支払意思額・支払可能額調査」が含まれているが、本業務では料金徴収に係る各種検討（料金設定・料金徴収方法・料金場所等）は含まれないと考えてよいか。	料金徴収に係る各種検討につきましては、並行して事業化が検討されている PPP 事業の方で検討されると承知しておりますので、本業務では同 PPP 事業での検討状況の確認までを調査範囲といたします。
7	19 頁 8. (14) PPP 事業に係る情報収集	「本事業で建設する施設を PPP 事業者が運営・維持管理を行う場合も含め検討する」とあるが、本事業区間単独での PPP 事業による運営・維持管理を想定しているか。もしくは、隣接する区間と本事業区間を併せた区間を PPP 事業として、PPP 事業者が運営・維持管理を行うことを想定しているか。	現時点では、運営・維持管理の体制は未定となっております。ご提示頂いた両ケースともに可能性がありますので、ケースごとに運営・維持管理上の留意点を整理して頂く予定です。
8	21 頁 8. (17) インテリム・レポートの作成・協議	【質問 1】「6. (2)～(15)の調査項目の結果、及び(16) 1) g. と h. を除いた概略事業費の積算を含む」と記載があるが、これは誤りで、正しくは「6. (2)～(5)の調査項目の結果」と解釈してよいか。 つまり、インテリム・レポート協議後に、自然条件調査、概略設計及び概略事業費の積算を実施するという理解でよいか。	P21 の「(17) インテリム・レポートの作成・協議」の記載に誤りがありました。「6. (2)～(15)の調査項目の結果(後略)」とありますが、「8. (2)～(15)の調査項目の結果(後略)」と訂正させていただきます。 インテリム・レポートには「8. (2)～(15)の調査項目の結果、及び(16) 1) g. と h. を除いた概略事業費の積算」の調査結果を含めて頂く予定

		<p>【質問2】P21「調査開始3.5ヶ月以内を提出      目途とするインテリム・レポートに6.(2)～      (15)の調査項目の結果、及び(16)の1)g.とh.      を除いた概略事業費の積算を含むインテリ      ム・レポートを作成し、RHD, RTHD 及び PPP 庁と      十分に協議・確認する」および      P25.「記載事項：事業背景・経緯、対象道路の      現況調査と課題の抽出、協力対象区間の特定お      よび各サブプロジェクトの優先順位設定等」に      関して      6.(2)～(15)とありますがこれは8.(2)～(15)      と理解しました。      インテリムレポートは調査開始3.5ヶ月以内を      提出目途とありますが、3.5ヶ月以内で自然条      件調査、概略設計、施工計画の作成、本体事業      費積算などを完了させることが求められてい      るのでしょうか。自然条件調査は雨期(6月～      9月)を考慮すると調査開始(7月中旬)後3.5      か月では完了が難しいと想定しており、その結      果を反映したレポートの作成は困難と考えま      す。自然条件調査については、2次データ活用      及びその時点で終わっている部分のみのデー      タを用いた概略設計、施工計画となるという理      解でよいのでしょうか？また、ドラフトファイ      ナルレポート時に最終的な自然条件調査結果を      反映させた概略設計及び施工計画を提案する      という理解でよいのでしょうか？もしくは、自然条</p>	<p>です。      概略設計、施工計画、概略事業費の積算に当      たっては、代替案検討を通じて最適案を選      定し、選定された案を踏まえて自然条件調査を      実施して頂く予定です。精度の確保のため、雨      期でも計測可能な項目を優先して期間内に      できる限り調査を実施し、雨期に計測が      難しいもの及び時間的制約から調査が      難しいものについては二次データ等、      入手可能なデータを活用して頂く      ことを想定しています。      また、インテリム・レポートまでに未      実施の調査につきましては、イン      テリム・レポート提出後に実施し、      同調査結果を踏まえた概略設計、      施工計画、概略事業費の積算を      ドラフトファイナルレポートで      提案して頂きます。</p>
--	--	--	--

		件調査は調査開始後3.5ヶ月以内に終わるものだけを提案可能ということでしょうか？	
9	23頁 8. (21) 経済・財務分析及び運用・効果指標の検討	本業務では「財務分析」は含まれない（円借款の審査項目には含まれない）と考えてよいか。	本事業では、財務的分析は行わない予定です。
10	28頁 2. (2) 1) 業務量の目途	評価対象従事者のM/Mが記載されていないが、QCBS方式では記載されないものと理解してよいか。	ご理解のとおりQCBS方式では記載しておりません。
11	29頁 2. 業務実施上の条件 (5) 安全管理	現地渡航の人数制限は無いものと想定し、作業計画・要員計画を提案してよいか。	<p>バングラデシュ国の安全対策措置を踏まえ、派遣規模の目安は派遣1グループあたり2週間×2-3名としています。</p> <p>ただし、(i)業務上の必要が認められ、(ii)渡航者が希望し、(iii)安全対策が担保されている場合は、滞在期間の延長や3名を超える人数での渡航を可としています。もし、本事業の特性から特殊な派遣形態をとる必要性がある場合には、プロポーザルにてその必要性並びに当該派遣形態をとる場合にどのように安全対策をとるのかについて、ご提案をお願いします。</p> <p>また、実際に目安を超える規模の派遣を行う場合は、各派遣の渡航連絡票に、業務上の必要性は緊要度欄に、安全対策は安全対策欄に記載して、ご提出するようお願いいたします。</p>
12	P12 (3) 事業概要 P13	<p>P12では</p> <p>「N1において以下の整備を行うことを想定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パティヤ、ドハザリ、ロハガラ4車線のバ</li> </ul>	ADBの支援で実施されたF/S及びD/Dでの提案内容を踏まえ、弊機構が現地踏査を行い、対象区間の混雑状況、ROW、他道路との接続、

	(3) 既存の調査	<p>バイパス道路建設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケラニハット 4 車線の フライオーバー の建設</li> <li>・ マタバリ港アクセス道路と N1 の接続部分 立体交差による 交差点改良 及びチャカリア市街地を迂回する 4 車線のバイパス道路の建設。」 一方 P13 では</li> </ul> <p>「Feasibility Study (F/S) 及び詳細設計が実施済みであり、チッタゴンーコックスバザール間の主要なボトルネックとして、パティヤ、ドハザリ、ケラニハット、ロハガラ、チャカリアの 5 地点が挙げられ、パティヤとドハザリにおいてはフライオーバー、残りの 3 地点においてはバイパス道路を建設することが提案されている。」</p> <p>P12 の本件調査の想定と ADB の F/S・D/D での提案内容が異なります。</p> <p>単なる記載の誤りでしょうか、あるいは本件調査の想定で変更されたのでしょうか。もし後者であればその経緯についてご教示ください。</p>	<p>後背地の土地利用状況等を確認し、フライオーバー及びバイパス道路の必要性及び施工性を勘案した上で P12 に現時点での想定を記載しております。</p> <p>他方、各地点の整備方式は確定しているものではなく、本調査を通じ、整備方式及び整備方式ごとの経路を代替案として比較検討していただく予定です。</p>
1 3	P13 (3) 既存の調査	ADB による FS・DD 調査で提案された計画図面を貴機構でお持ちであれば貸与資料として共有いただけないでしょうか。	計画図面は保有しておりません。
1 4	P25 3) 準備調査報告書 (ドラフト・ファイナル・レポート)	DF/R の提出時期について、 P25 では「調査開始 9 ヶ月以内を目途」とあり、調査開始が 2019 年 7 月中旬の場合、9 ヶ月目は	P28 の記載を「2020 年 3 月中旬までに準備調査報告書 (ドラフト)」から「2020 年 4 月中旬までに準備調査報告書 (ドラフト)」に訂正さ

	P28 (1)業務工程	4月中旬になります。 一方P28では「2020年3月中旬までに準備調査報告書（ドラフト）」とあります。 どちらが正しいでしょうか。	させていただきます。
以上、5/21 回答			
15	P30 5)現地調査中の執務室～	「現地調査中の執務室については実施機関が提供する施設を想定しているが、～」とありますが提供を想定されている執務室の場所はダッカあるいはチッタゴンあるいは別の場所、どちらになりますでしょうか。	ダッカでの提供が予定されています。

以上